

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は弱まっている。

- ・ 観光はこのところやや弱含んでいる。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

前回調査からの主要変更点

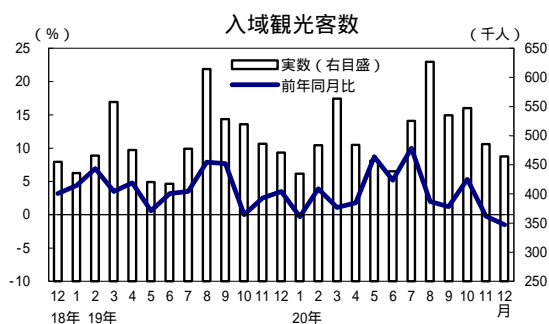
	前回（平成20年11月）	今回（平成21年2月）	
景況判断	足踏み状態	弱まっている	
観光	堅調に増加	このところやや弱含み	
個人消費	おおむね横ばい	弱い動き	
雇用情勢	弱含み	急速に悪化しつつある	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光はこのところやや弱含んでいる。

入域観光客数は、10月は、天候が安定し、航空会社の割引運賃値下げ効果もあり、3連休が好調に推移したことや、修学旅行が堅調だったことなどから過去最高を記録した。しかし、11、12月は一部航空路線の減便などにより、国内客は微減となり、外国客についても、香港からの集客が好調であったものの、世界的な景気悪化の影響等による旅行手控えがあったとみられ、前年を下回った。

主要ホテルの客室稼働率は、新規ホテルや旅館の宿泊施設数の増加や、他の宿泊施設利用者の増加に伴い、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年を下回った。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

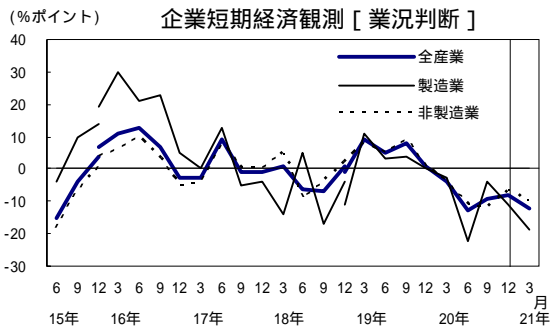
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
入域観光客数 (前年比)	1,482 1.6	1,380 5.1	1,687 4.1	1,497 1.3
ホテル稼働率 (前年差)	78.5 1.9	69.9 1.8	81.1 0.5	71.7 0.6

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光工商部調べ。

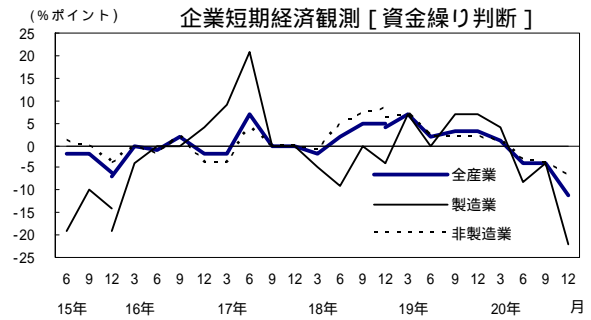
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。調査対象は43ホテル。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

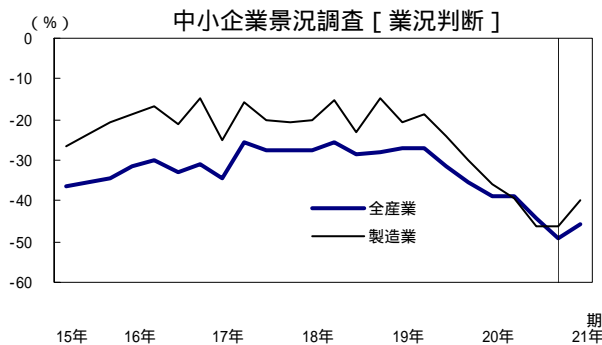
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

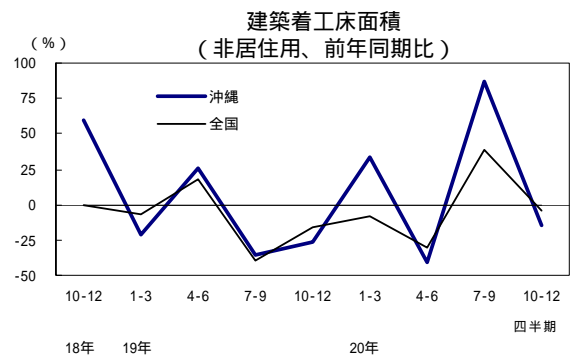
「建築関係は受注残があり影響は薄いが、各種小売店の流通量は減りつつある(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	26.4	15.3(3.7)
製造業	14.2	123.4(3.8)
非製造業	31.6	6.3(5.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。石油・電力を除く。



2. 需要の動向

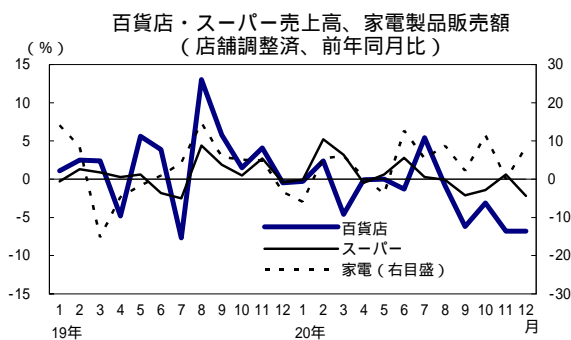
(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電製品販売額及びコンビニエンスストア販売額
百貨店は、10月は、物産展の効果で食料品は増加したものの、衣料品や身の回り品などが減少し前年を下回った。11月は、催事イベント効果で身の回り品や食料品は好調だったものの、衣料品の減少が続いていることなどから前年を下回った。12月は、すべての品目で減少し、前年を下回った。

スーパーは、セール効果で食料品は好調だったものの、衣料品などが減少し前年を下回った。家電は、エアコンや白物家電、引き続き薄型テレビが好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

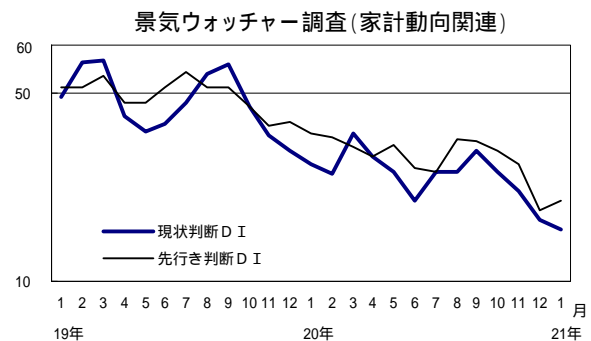
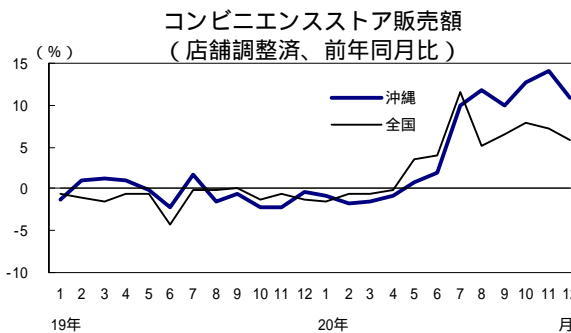
「来客数の減少が続いており、最近では会員へのポイント還元を増やすセールを行っているが、まだ客数増の様子はなく前年比マイナスの状況が続いている(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「例年成人式までは新年会等でかなりの来客数があるが、今年は仕事始めから平日の来客数が極端に悪い。また、ガソリン価格の安定、輸入品の円高差益で仕入れのコストダウンを期待しているが、仕入価格に目に見えた動きが無い(その他飲食[居酒屋])」など「悪くなっている」とする回答もみられた。



(前年同期比、%)

	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
百貨店	1.0	0.5	0.4	5.7
スーパー	2.7	1.0	0.6	1.1
家電製品販売額	2.3	3.6	5.3	6.6
コンビニ	1.4	0.6	10.6	12.5
景気ウォッチャー	36.2	32.2	34.5	28.5

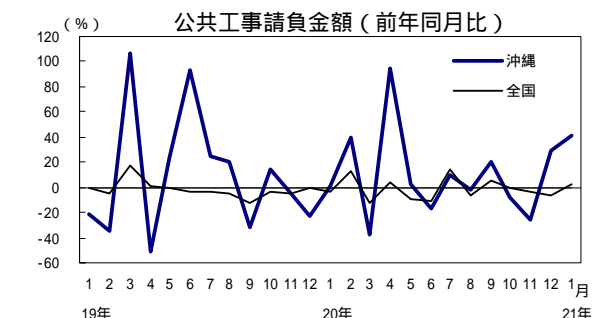
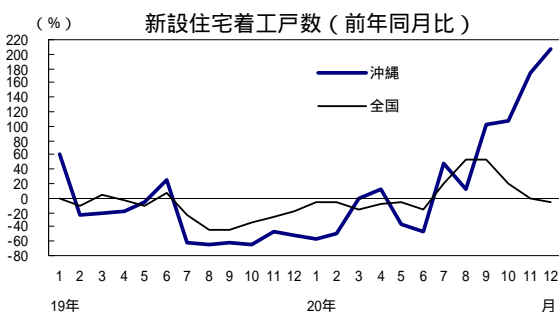
- (備考) 1. 百貨店、家電(卸売ベース)は日本銀行那覇支店調べ。
2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。

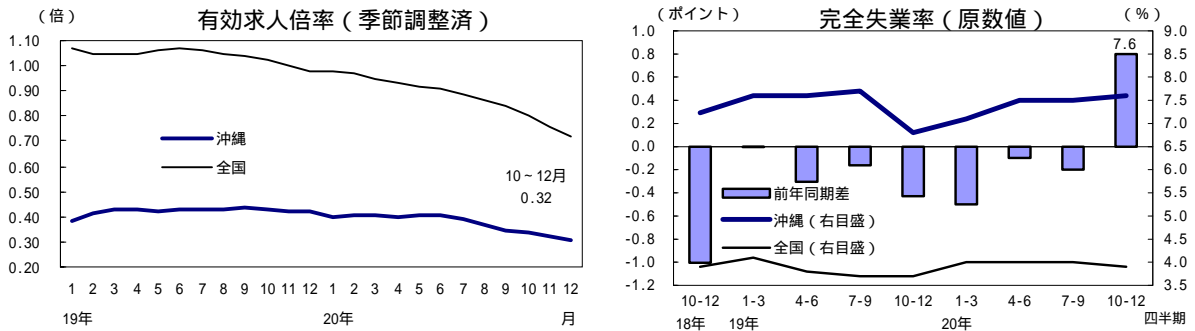


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

「前年の同時期と比較して、県外からの求人数が減少している。また大幅に採用予定枠を減らしている企業が多数みられる(学校[専門学校])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

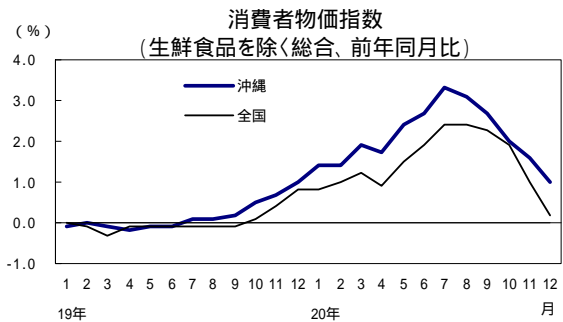
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

1月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	26	16	35	21	12
(前年比)	73.3	30.4	118.8	12.5	9.1
負債総額	45	50	607	25	86
(前年比)	223.7	13.2	3,904.6	25.6	977.0



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・製造業が少ない沖縄ではまだ大きな落ち込みは無いが、急に引き締め感が出てきている。人材供給の方が増えてきたため、派遣契約期間内にもかかわらず、契約終了を一方的に通達し、派遣先が自分たちで直接雇用する動きも出てきている(人材派遣会社)

<先行き>

- ・景気が回復しないとし好品である書籍は売れない。たとえ良い作品が出版されたとしても、それだけでは景気回復は無理である。全国的に店舗を展開する書店でも閉店が相次ぎ、あと2、3年は明るい兆しはみえない(その他専門店[書籍])

